

# 政務調査研究視察 報告書

平成19年10月12日提出

視 察 日	平成19年 10月 3日 (水)	
視 察 先	安城市	
視 察 内 容	安城市(安城南明治土地区画整理事業)	
視 察 者	梅村順一・鈴木雅登 計2名	
安 城 市	<p>＜安城南明治土地区画整理事業について＞                  安城駅から南に500メートルほどの旧安城更生病院跡地に隣接する旧安城市街地16.7haが区画整理事業と生活再建支援事業を組み合わせたメニューによる事業を計画している。木造家屋が密集している上、細い路地が入り組んで大地震などでは大きな被害が予想される。そこで安城市は防災機能を強化し、住みやすい街に生まれ変わらせる計画である。具体的には区画整理エリアに幅20メートル道路を配置、周辺に生活道路を巡らせる。更に約3000㎡の公園を2ヶ所設けて居住者が住みやすく、防災非難拠点としての意味合いももたせる。土地利用としては商業地域としても利用しやすい設計にする方針。区画整理事業は2027年3月までの20年間で予定しており、全体の事業費は285億円(区画整理235億+生活再建支援50億)を見込んでいる。特筆すべきは、現在居住している住民に「区画整理後も残ってもらえるよう、生活再建策を安城市が提示することにより、事業を円滑に進めようとしている点である。具体的には、区画整理期間中には一時転居などの必要性が住民に求められるが、その一次移転先の確保などの対策費である。</p> <div data-bbox="1043 539 1409 819" data-label="Image"> </div>	
	<p>〔感想・岡崎市への反映〕                  今回の視察の目的は岡崎市内にも存在する旧市街地の活用方法についてである。まず、安城市においては区画整理事業により住みやすいマチに変えることを考えている。更に、後述の碧南市における旧市街地の活用方法は、その地域に多数存在する神社仏閣を資源として活用した事業である。より具体的な目的は、コンパクトシティの具体的なイメージを構築することにある。今、団塊の世代の大量退職時代を向かえている。その世代の皆さんの大きな要望は「車に乗れなくなった時に備えて、歩ける範囲に生活に必要なモノが整っている市街地に引っ越したい」というものである。                  その要望を満たすには、市街地を広げて新しい街を作る方法があるが、人口減少時代を迎えた日本にあって市街地を「ヨコに」拡大する政策は市街地を拡散させ投資効率の薄いマチを作ってしまう危険性がある。従って現在の市街地内で「タテに」伸びることにより歩いて暮らせるマチづくりを志向したらどうかという視点に立った時、市街化地域の区画整理がなされた土地の高度利用(マンション化)による対応が考えられる。                  しかし、市街地内において区画整理がなされていない土地も存在する。太平洋戦争の空襲で焼け残った旧市街地で細い路地が多く防災上危険な地域が上記の安城同様、岡崎市内にも存在する。更にその土地では駐車場が十分に確保できない為、若者は住みづらく転居してしまう。高齢化はかなり進んでいる場合が多く、従って空家も多数見られる。その土地に焦点を当て、高度利用が可能な土地に区画整理することにより、細い路地をなくし、防災上の危険性を低下させ、歩いて暮らせる土地に住みたいという要望を満たすことは重要な施策と考える。こういう旧市街地は一般的には借地・借家契約者が多い。区画整理後もその土地に住み続けてもらうためには上記安城市の区画整理事業のメニューの一つである生活再建支援策の提示により、区画事業事業を「円滑に」進めていくことが大切と感じた。</p>	

視察日	平成19年 10月 3日 (水)
視察先	碧南市
視察内容	碧南(歩いて暮らせるまちづくり事業)について
視察者	梅村順一・鈴木雅登 計2名
碧南市	<p>&lt;歩いて暮らせるまちづくり事業について&gt;</p> <p>碧南市大浜地区は平成12年に国から「歩いて暮らせる街づくり」のモデル地区に全国20ヶ所の一つとして認定された。この地区は、南北朝・室町時代から港町として開け、大きな寺院など貴重な歴史・文化資源が多く点在するとともに、味噌などの特産品を生産する工場の蔵や細い路地があり、心地よい雰囲気をかもし出している。この土地柄そのものを活かす為の施策である。ただ光の部分ばかりではなく影の部分も存在する。細い路地が多いため車に不便であり、建築基準法の規制により立て替えの場合にはセットバックする必要があり、なかなか建替えが進まないなどの理由により人口が減少し商業機能も衰退しているのが現状である。こういった条件下において、伝統ある路地裏などの豊かな歩行空間を有効活用し、区画整理によらないコンパクトで現存する街並みを活かした整備を推進していく。具体的には拠点となるべき遊休施設を有効活用することである。例えば、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①街中巡回バス くるくるバスの運行による歩いて暮らせるまちづくりの推進</li> <li>②旧碧南商工会議所の美術館への改装</li> <li>③大浜漁港 旧冷凍冷蔵庫の改修検討</li> <li>④大浜陣屋跡 史跡の活用</li> <li>⑤趣ある細い路地の整備・改修</li> <li>⑥整備すべき生活道</li> <li>⑦堀川の親しみやすい空間 整備</li> <li>⑧大正時代の通りの活性化</li> </ol> <p>更に、これらの拠点を整備した上で、ウォーキング大会を企画することによって、このまちを知ってもらう活動を推進している。</p> <p><b>【感想・岡崎市への反映】</b></p> <p>旧市街地の再建築としては安城市のような区画整理によるまち自体の再建築と、碧南市のような歴史・文化遺産を活用した再興策の二通りがあると感じた。碧南がこの方針を採りえた大きな理由はそこに歴史・文化遺産があったからである。</p> <p>ここで最近の健康志向の高まりを背景に街中を健康のために歩く市民が増えている。そのウォーキングの名所スポットとして岡崎市内の名所・旧跡を整備するとともに、趣味の陶芸・絵画の展示スペースを設け、その路地は趣のある道路舗装により路地の雰囲気を醸し出す。つまり、まち中の「歩いてみれる美術館・博物館」を市内各所の名所・旧跡が点在する土地柄に線としての整備をしていくと良いと思った。更に、その線を岡崎市の「歩いてみれる美術館・博物館」として岡崎市外のウォーキング愛好者に宣伝・アピールすることにより、観光客誘致を図っていくことも良いと思う。</p>

